

申請者氏名 日病 太郎

申請者所属施設名 日病薬病院

(精神疾患種数 6)

精神疾患患者への薬剤管理指導実績の要約 (50例)

(症例番号を付し、性別・年齢・精神疾患名、治療の内容、指導内容などを要約してください)

症例 (1)	年齢・性別	32歳・男性
	精神疾患名	統合失調症
	治療内容	薬物治療 (①抗精神病薬)、心理教育、精神療法、その他()
	入院・外来の別	入院・外来 入院期間 (1年5ヶ月)
	薬剤管理指導業務内容の要約	薬剤に対して、自分の薬にだけ毒が入っている等の訴えがあり、頻繁に薬剤の変更を求めるため、主治医と共に薬剤の効果・副作用について説明を行い、処方調整を行った結果、服薬の継続が可能となった症例。オランザピンでは“朝眠くて起きられない”また“やる気が出ない”などと訴え、クエチアピンへの変更を求めるが、過去のクエチアピン処方時には脱抑制が生じており、体重増加・血糖値上昇等をモニターしながらオランザピン単剤での治療を目標に用量調整に係った。
症例 (2)	年齢・性別	67歳・男性
	精神疾患名	双極Ⅰ型気分障害
	治療内容	薬物治療 (③気分安定薬・②抗うつ薬)、心理教育、精神療法、その他()
	入院・外来の別	入院・外来 入院期間 (4ヶ月)
	薬剤管理指導業務内容の要約	うつ病相で入院。睡眠相の後退により深夜3時頃に就寝し、翌日の午前中はベッドの中という状態。入院直前に塩酸トリヘキシフェニジルを急激に減量したため、入院時CK値2,000 IU/lと高値であったが、発熱、発汗は無かった。しかし、悪性症候群も念頭に薬原性錐体外路症状をモニターしながら塩酸トリヘキシフェニジルを中止した。また、炭酸リチウムの服用によるリチウム中毒のモニターを血中濃度、初期症状から行い、脱水やNSAIDs使用上の注意についての情報を提供した。さらに、抗うつ薬は少量の追加で躁転してしまうため、前駆症状について検討し早期介入を行った。
症例 (3)	年齢・性別	29歳・男性
	精神疾患名	統合失調症
	治療内容	薬物治療 (④抗不安薬・⑤睡眠薬)、心理教育、精神療法、その他()
	入院・外来の別	入院・外来 入院期間 (2ヶ月)
	薬剤管理指導業務内容の要約	入院時、保護室にてベンゾジアゼピン系薬による依存、脱抑制、前向性健忘症等について症状をチェックし、依存(-)、脱抑制(+)、前向性健忘症(-)。ベグタミンA錠®+ニトラゼパム10mgが処方されており、ジアゼパム換算で23mg。さらに呂律が廻らず、本人もベグタミンA錠の中止を要望していた。就寝前の薬剤をゾレピンに変更することを主治医に提案し、脱抑制の改善がみられた症例。また、ベンゾジアゼピン系薬等による奇異反応についての指導を行ない、服用に際しては注意が必要であるとの心理教育を行った。